

第3回 ふくいの水産業のあり方検討会における主な意見（概要）

日時 令和7年1月14日（金）13時30分～15時30分

場所 県庁2階中会議室（WEB 併用）

1 変化に強い持続可能な水産業へステップアップ

(3) 新たな担い手の確保・育成

- ・半漁半Xは、漁業者がどんな働き方をしているか知らない方が多いと思うので、一般の方への紹介や周知、どんなふうに提案できるかがポイント。（浪川委員）

2 魅力あふれる漁村コミュニティづくり

(1) 販わいを創出する「海業」の推進

- ・漁協直営や民間企業、大学等との連携とあるが、高校生も入れてほしい。（武井委員）
- ・地域全体で連携した取組みとし、コンテンツを組み合わせたコース化すべき。（浪川委員）

3 地魚の魅力発信と販売促進

全体

- ・県内の流通、販売促進を強化するというのがもっと目立つようにしてほしい。県外の方が目立つ。（三木委員、武井委員）

(1) 販路拡大のための新たな流通体制の構築

- ・新幹線輸送は、加食部のみを運ぶことで物流コストが圧縮できる。朝獲れを現地でフィレなどに加工して運ぶのがよい。（大濱委員）
- ・新幹線輸送だけでなく、大量に運べる中部縦貫道などのトラック輸送もしっかり考えてほしい。（渡慶次委員）
- ・新幹線で運ぶだけでなく、運んだ先で売り込みをするなど営業機能を持つことが潜在ニーズにつながる。（久賀委員）

(2) 最新の加工技術を活用した付加価値向上

- ・一次加工が重要。他県でもできていない。福井県の漁獲量の半分は定置網。ぜひ定置網の魚を加工して付加価値を付けてほしい。（大濱委員）
- ・消費者に提案できる魚介類のいいところを考えると、健康や機能性成分をウリにした商品開発もよい。美味しく食べて健康になれることをPRできるとよい。（水田委員）

(3) 需要に応じた販売戦略による「ふくいの魚」ファンづくり

- ・ブランド化は、これまで県の方が色々考えて取り組んで来られたが、絶対プロに依頼するべき。行政がするとどう頑張っても事業で途切れてしまう。ふくいの魚の魅力を最大限に活かすにはいろんな視点と手法で総合的にやっていく必要がある。ブランド化はブランド屋に依頼するのが民間の主流。（西村委員）
- ・「越前・若狭」というワードには力があり、「越前・若狭」と「福井」をうまく結び付けられるとよい。（浪川委員）
- ・量販店と連携したというのはよい。とにかく売り込みと販売促進が足りない。（三木委員）
- ・家庭、地域、学校、企業での地産地消の推進とあるが、福祉も入れてほしい。（武井委員）